

令和6年度国立赤城青少年交流の家教育事業

「あかぎ無限大キャンプ（事前キャンプ）」

1. 趣旨

本キャンプに向け、心身の準備を整えるとともに、キャンプについての基本的な知識技能の習得を目指す。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年7月13日（土）～7月14日（日）【1泊2日】

(2) 参加者 23名

5年生男子（8名） 6年生男子（4名）

5年生女子（6名） 6年生女子（5名）

3. 企画運営のポイント

- (1) 本キャンプで実施予定の日程・プログラムを基に計画し、参加者が本キャンプに向けて心身の準備を進められるようにした。また、登山や野外炊事では安全指導を行い、基本的な知識・技能の習得ができるようにした。
- (2) より多くの参加者同士が交流できるようにするため、プログラムごとにチームを再編成した。
- (3) チームリーダーであるボランティアがより多くの参加者の実態把握ができるよう、プログラムごとに担当するチームを変更した。

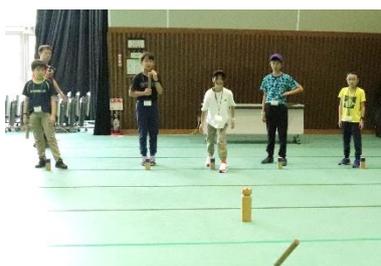
4. 日程

	午前	午後	夜
7月13日 （土）	受付 開会式 自己紹介・アイスブレイク 昼食	レクリエーション （クップ・キンボール）	野外炊事 講師：研修指導員 角田 正基 氏 ふりかえり
7月14日 （日）	朝のつどい 朝食 登山 （覚満淵～長七郎～小沼） 講師：研修指導員 荒木 輝夫 氏 昼食 （小沼湖畔）	ふりかえり アンケート 解散	

5. 主な活動内容



「アイスブレイク」



「クップ」



「キンボール」



「野外炊事」



「登山」



「ふりかえり」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：16人（69%） やや満足：5人（21%）
やや不満：0人（0%） 不満：0人（0%）

(2) 参加者の声

- ・自分だけではなく、みんなと楽しめた。
- ・疲れたけどとても楽しかった。
- ・カレー作りやレクリエーションが楽しかった。
- ・普段できない野外炊事や登山ができて良かった。
- ・ボランティアさんやスタッフさんが話をしてくれたり質問に答えたりしてくれてとても嬉しかった。
- ・まだ体験したことがないことも体験できたので良い経験になった。
- ・みんなと仲良くなれたし、色々なことに挑戦できた。
- ・キャンプってこういうものなのだというのがよくわかった。
- ・スタッフやボランティアが笑顔で対応してくれた。

(3) 成果

- ・活動ごとにグループを再編成したことにより、参加者同士の多様な交流につながった。また、ボランティアと参加者の関係性の構築にもつながった。
- ・ボランティア主体のアイスブレイクを実施したことにより、参加者とボランティアの関係づくりにつながった。
- ・登山や野外炊事では、登りの登山者を優先したり、かまどの周りを走らないよう声を掛け合ったりする姿があり、安全指導の効果が見られた。
- ・本キャンプに向けて、自己の体力や野外炊事での改善点など課題を見つけ、本キャンプに活かしたいという前向きな感想が多く、本キャンプに向けての期待が高まった。

(4) 課題

- ・事前キャンプ、本キャンプとも、暑さへの対策が必須である。本キャンプではゆとりあるプログラム編成や健康観察を行うことで、熱中症予防に努める必要がある。
- ・登山の際、雨天やバス酔い等の影響で、予定した行程より遅れが出た。ゆとりあるプログラムの編成に加えて、参加者の登山経験等を考慮に入れた時間配分を考える必要がある。

担当：企画指導専門職 平澤 輝樹